

# 若事研広報

No.209

編集・発行

岩手県公立小中学校

事務職員研究協議会

総務部

令和2年10月30日

## 支部活動紹介

- ①支部の活動状況
- ②特色や独自の取組、  
アピールポイント

コロナ禍の中令和2年度も半年経過し、支部事務研活動も工夫を凝らしてのスタートになりました。今回は、支部からご協力をいただき、支部推薦のみなさまから活動内容を紹介していただきます。 ※レイアウトの都合上、順不同です。

### 盛岡支部 広報部員 熊谷 春那さん（杜陵小）

- ① 盛岡支部は年5回の全体研修会を主な活動として、市教研の一斉研修会・事務職員部会を兼ねるかたちで行っています。  
全体研修会では、前半に講演会や行政説明、後半に班別研究が行われ、毎回中身の濃い研修になっています。
- ② 盛岡市内は学校数が非常に多いのが大きな特徴です。そのような中、支部の活動は違う共同実施グループの事務職員と交流するまたとない機会となっています。研修内容に留まらず、様々な情報交換の場としても意義のあるものになっています。  
また、盛岡支部では現在、令和3年度に開催予定の県大会での発表に向け各班で研究を進めています。このような情勢のため予定通りに発表できるか分からないところですが、実りあるものになるよう支部全体で頑張ります。

### 紫波支部 支部推薦 藤井 菜緒さん（長岡小）

- ① 今年度は町単位で研究に取り組んでいます。年間3回の予定で、第2回研修会では講師を招いての講演会を企画しております。また、年度初めに支部員の顔合わせの機会を持てなかったため、会員紹介の臨時広報を発行しました。
- ② 紫波町と矢巾町で構成されており、会員数は21名、うち臨時職員が6名です。（加配、育休補充含む）学校数は20校ですが、紫波町立学校再編計画により令和2年度末に2校、令和3年度末に4校が廃校の予定です。そのため、記録及び施設活用方法の交流として、各校の様子や職員室レイアウトを支部の広報に掲載しています。  
また、今年度は開催できていませんが年数回の厚生活動を通じて、会員との親睦及び連携を深めています。

### 花巻支部 研究部長 石川 力行さん（矢沢中）

- ① 例年は、総会と年間5回の全体研修会を行っていましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響で、参集しての総会は中止となりました。全体研修会も開催時間と回数を縮減して活動しています。
- ② 「経営参画」「教育支援」「事務改善（A/B）」「人材育成」の5つの班を編制しての班別研修を中心に研究をすすめています。各班の研究成果は、年最後の研修会において発表し、会員全体のものとしています。長期休業中の研修会は全日日程で行い、市内の施設見学や体験型の学習等、一般教養の企画も織り交ぜて行っています。（今年度は密を避けるため班別研は中止しています）全会員の自己紹介（趣味、特技、好きな／嫌いな食べ物 etc）を掲載したユニークな広報も発行しています。

### 岩手支部 事務局長 高橋 信三さん（滝沢南中）

- ① 岩手支部は、岩手町、雫石町、八幡平市、葛巻町及び滝沢市から成り立ち、会員数は42名で活動しています。

支部の活動として、年3回の半日研修を行い、講師を呼んでの講義形式研修や、職階別の研修を設けて、幅広い内容の研修を行っています。

<主な研修内容>

- ・盛岡大学准教授を招聘しての講義
- ・個人の実践発表
- ・採用3年目までの職員の業務取組交流
- ・退職職員からの講義

- ② 特筆すべき活動は、ウィングラス型の人事配置状況を考慮し、採用3年目までの職員（新採用等）に、共同実施以外での交流の場を設け、運営交流してもらうことにより資質の向上を促し、次代のリーダー育成とその育成過程に重きをおいた活動を実践しています。

### 和賀支部 広報厚生部長 高橋 真未さん（江釣子小）

- ① 研修会の回数は年に4回です。

今年度は今までの研究に一区切りをつけ、個人またはグループでテーマを設定し研究を進めています。採用1・2年目の会員は人材育成グループとして講師担当の先輩事務職員から研修を受けています。

- ② 毎年、新採用や他支部からの転入者に向けてこれまでの和賀支部の取り組み（文書管理や事務引継ファイル）の研修を行い、実践と活用をお願いしています。また、研究のまとめを毎年発行し、情報共有と財産の継承に取り組んでいます。

研究以外にも、会員の一言発言や広報「りんてんき」の発行を通じて、会員同士の交流を深めています。研修会は原則全員参加を基本としています。採用2年目の会員も役員メンバーとして活躍しています。

### 遠野支部 支部長 小野 幸伸さん（遠野西中）

- ① 研究会は例年の夏冬2回開催を1回に縮減しました。今年度は遠野市においても急ピッチで施設整備が進められている「GIGAスクール整備事業」についての研修を市教委の担当職員を講師に招いて実施します。

- ② 支部内全事務職員の会員化と事務共同実施定例会（市内3室）が常時一堂に会する機会を活用し、業務改善研究を共同実施の業務に追加し研究協議を行っています。その成果の具現化のため、例年共同実施推進協議会と市校長会に対し、学校運営に関する改善要望事項の提起を行っています。また、遠野市内小中学校事務職員向けのホームページ「遠野ずもな学校事務」を開設し、市内学校事務の統一化、効率化、情報共有を図っています。

### 胆江支部 事務局長 草野 若子さん（金ヶ崎中）

- ① 胆江支部は、奥州市36校36名、金ヶ崎町6校7名の43名の会員です。

活動の中心は3年の中期研修計画を基にした、個人研修一人一実践の取組です。PDCAサイクルによる実践を通し、個人のスキルアップと学校経営への参画を図っています。

- ② 具体的には、「自己目標設定シート」と、経験年数別に作成した「チャレンジシート」（10年以上）または「えがおシート」（10年未満）を研修会に持参します。少人数グループで課題、現状、取組状況について交流し、相互にアドバイスをしています。この取り組みを始めて十数年の間、少しずつ改良を加え、今年は8領域を意識してシートを作成し、9月に第1回研修会を行いました。

## 一関支部 広報部長 富士原 尚子さん（巖美中）

- ① 例年だと年4回の支部研究会を開催していますが、今年度は新型コロナの影響で春先の研究会は見送り、新型コロナ対策を徹底しながら7月27日に今年度最初の研究会を開催、会員同士の顔合わせをすることができました。
- ② 太平洋側から奥羽山脈側まで東西約63kmの市域を持つ一関市と世界遺産を有する平泉町の一市一町、49名の会員で一関支部は構成されています。  
割と大所帯な支部ですので、研究会で一同に集まると会場内はワイワイ賑やかな雰囲気です。大所帯ゆえに今年度はソーシャルディスタンスを保てるような会場の選定で事務局は苦慮している状況ですが、机は出さずに椅子のみ並べ、バインダー持参で！などの工夫をして研究会を開催しました。

## 気仙支部 事務局長 佐藤 正太さん（大船渡中）

- ① 年間2回研修会を計画していますが、ニーズに応じて柔軟に活動しています。  
全体研修と班別研修の2つを主軸とし、全体研修では、今年度から研究テーマを「気仙の私たちが考える事務職員の将来像とは」と設定しました。
- ② この3年間に6名の新採用者が加わり、20代が約3割、30代を含めると4割超と急激な若返りが進んでいます。  
若手の視点を活かした研究のあり方を模索しています。班別研究は市町単位で行い、新規採用者指導の年間計画書の作成、事務の年間計画の作成、学校集金業務・会計業務の市内統一とそれぞれの課題解決を目指し取り組んでいます。  
研究活動に参加し、課題解決のためのアクションを起こせる力を身に付けていきたいと思っています。

## 釜石支部 広報担当 蛭澤 穂果さん（釜石東中）

- ① 第1回研修会はパソコン操作技術についての勉強会を行い、若手事務職員が多く参加しました。第2回研修会は学校事務職員としての資質と能力の向上と「従事するからつかさどる事務」の探求を図る内容で開催予定です。
- ② 釜石支部は県内では比較的平均年齢の若い少人数の支部です。支部の活動では、エクセルなどのパソコン操作技術にかかわる勉強会を行ったり、日常業務の悩みについて若手事務職員がベテラン事務職員から助言をいただく機会を設けたりするなど、日々の業務に生かせる研修・研究を行うことを心がけています。また令和5年度の県大会での発表を見据え、令和3年度以降の新しい研究を進めるために支部内での協議を進めているところです。

## 下閉伊支部 研修部長 花館 寿江さん（宮古西中）

- ① <研究テーマ>創造しよう、学校経営における学校事務を  
今年度の活動状況としては、個人研究テーマの集約と支部研究大会の実施を予定しています。
- ② 例年①の取り組みと共に夏季全体研修会を実施しておりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止といたしました。  
しかしながら個人研究テーマをほぼ全員が設定し、経営参画・教育支援・事務改善のテーマ別に個々に研究に取り組んでいます。  
1月の支部研究大会での発表には共同実施組織単位でのサポートが行われ、個人と組織の協同による取り組みが進められています。

## 九戸支部 研究推進委員長 田中 克幸さん(久慈湊小)

- ① 例年九戸支部での研究会は、4回実施しておりました。今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、回数を2回に減らしました。また、内容も新型コロナウイルスについてのグループ討議を実施しております。
- ② 新型コロナウイルスの流行状況により、研究会自体を実施できるかわかりませんでした。そのため、討議のテーマも1回ごとに完結できる内容としました。  
討議の際には、グループを4つに分け、密を避けるために部屋もグループごとに割り当てました。既に1回目を実施し、新型コロナウイルスに対する各学校の対応について情報交換の場を設けました。  
各種行事やリモートワークにどのように対応したのかなど学校ごとの対策を知る良い機会となりました。

## 二戸支部 広報担当 西舘 和裕さん(一戸南小)

- ① 今年度の研究会は、2回開催する計画です。学校事務経営計画の策定を通して、事務職員個人としてではなく、学校全体としての経営を考えることにより、学校事務がさらに広く、深いものとなるよう、会員全員で取り組みます。
- ② 研究会では、講演・講話等の全体研修とグループ研究を行っています。グループ研究では、交流をしやすいように、少人数に分かれて研究をしています。話しやすい環境を作ることによって、悩みを共有し、解決できる研究会にもなっています。  
また、広報も発行しています。今年度の第1号では、新採用職員や、二戸地区へ転入された職員からの挨拶を掲載しました。

## 東北事務研功労者表彰

令和2年度東北地区公立小中学校事務職員研究協議会功労者として、  
宮古市立第一中学校主任主査 **吉田 純氏** (前東北事務研理事) が表彰  
されました。

理事として平成25年から令和元年まで歴任され、東北地区  
事務研究発展にご尽力いただきました。

誠におめでとうございます。



### ☆編集後記☆

今回の支部活動紹介に、お忙しい中みなさまから快く寄稿いただきました。ありがとうございました。

コロナ禍で活動を制限せざるを得ない中でも、事務改善にかかる研究や若手職員の人材育成に力を入れている支部がたくさんあり、来年の研究大会分科会発表へ向け、ますます事務研研究への取組に期待や高まりを感じました。

次号210号では、令和3年1月8日開催予定の第2回岩手県公立小中学校事務全体研修会等の特集して発行したいと考えております。

最後までお読みいただきありがとうございました。